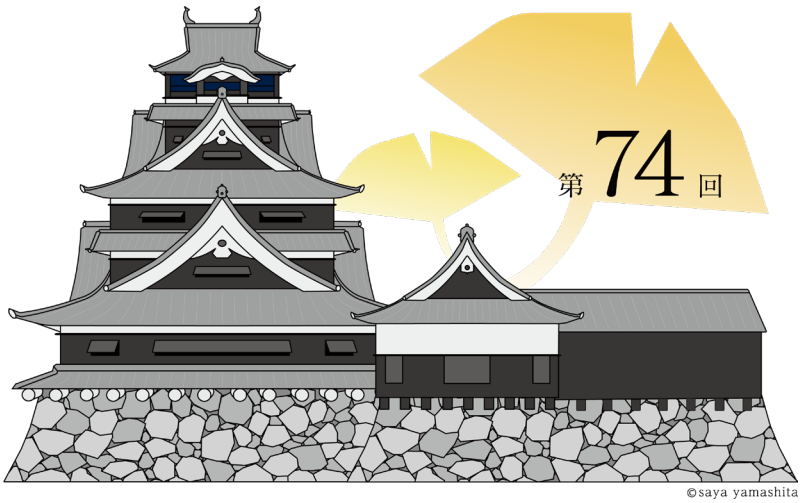
# 日本民俗学会　第 74 回年会　熊本
# 第2回　サーキュラー




先般、日本民俗学会第 74 回年会の案内をさしあげましたところ、約 230 名の参加申し込み、ならびに約 115 名の発表申し込みをいただきました。心よりお礼申し上げます。

さて、このほど年会の詳細が決まりましたので、第 2 回サーキュラーをお届けいたします。つきましては、参加費等のお振込みや発表要旨のご提出など、期日までのお手続きを何卒よろしくお願い申し上げます。

なお新型コロナウィルスの蔓延につきましては、ご承知の通り未だ予断を許さない状況が続いております。本大会は学会事業の正常化を目指し、感染拡大抑制に配慮しつつ、原則的に対面での実施の方針にて準備を進めております。大学施設や関連事業者等々、多くの調整を要する状況にあり、参加者各位におかれましても、不自由をおかけする向きもあるものと存じます。何卒ご理解を賜りたく、重ねてお願い申し上げます次第です。

日本民俗学会第 74 回年会実行委員会

目次

1. 大会概要
2. 交通アクセス
3. プログラム
4. 参加費の納入方法
5. 発表要旨の提出
6. 現地見学会（エクスカーション）
7. 書籍の販売について
8. 広告の募集
9. 公開シンポジウムのご案内
10. 今後のスケジュール

## 1. 大会概要

期日　2022 年 10 月 1 日（土）・2 日（日）・3 日（月）
会場　熊本大学 黒髪北キャンパス（熊本市中央区黒髪 2 丁目 40 番 1 号）
主催　一般社団法人　日本民俗学会
協力　熊本大学

## 2. 交通アクセス

・鉄道をご利用の場合（熊本駅より）
熊本産交バス 熊本駅前2番バス停より、E 系統（子飼・光の森・大津方面）乗車、熊本大学前バス停下車（所要時間約 25 分）。バス停前の赤レンガの正門よりお入りください。
・空路をご利用の場合（阿蘇熊本空港より）
熊本空港ライナー（無料）乗車、終点肥後大津駅で下車。肥後大津駅より JR 豊肥本線上り（熊本駅方面）乗車。竜田口駅下車。竜田口駅前バス停から桜町バスセンター・熊本駅方面に乗車。熊本大学前バス停で下車。下車後、左手に見える信号にて道路を渡り、右折、下り方面バス停前にある赤レンガの正門よりお入りください。
・会場の所在、アクセスに関しては熊本大学ウェブサイトもご参照ください。
https://www.kumamoto-u.ac.jp/campusjouhou

## 3. プログラム

10 月1日（土）公開シンポジウム・授賞式・懇親会

| | |
|---|---|
| 12：00 ～ | 受付開始（文法棟正面エントランス） |
| 13：00 ～ 16：50 | 公開シンポジウム（文法棟 A1 教室）<br>「文化財と地域資源―活用をめぐる農政学との対話―」 |
| 17：00 ～ 17：30 | 研究奨励賞受賞式（文法棟 A1 教室） |
| 19：30 ～ 21：30<br>（19: 10 入場開始） | 懇親会<br>会場：HANABI global kitchen<br>（熊本県熊本市中央区下通り 1-5-7 TASOGARE 東館 BF）<br>感染対策の上、立食形式を予定しております。 |

・今年度の理事会・評議員会、および会員総会は本年会とは別途開催される予定です。
・公開シンポジウムは YouTube を通じたリアルタイム配信を計画しています。その詳細は第 3 サーキュラーで通知いたします。なお今後の感染拡大の状況により、参加が事前申し込み制となる可能性があります。
・懇親会の時間は、第1サーキュラーの告知より変更となっております。お間違えのないようご参集ください。
・懇親会会場は熊本市の中心部に近い、ホテル等の宿泊施設も充実したエリアとなります。ただしシンポジウム会場（熊本大学黒髪キャンパス）からはやや離れますため、事前に移動手段をご検討ください。バスが通っておりますほか、タクシーで 1000 円ほどになります。会場への移動につきましては、実行委員会ではあっせんいたしません。

10 月 2 日（日）研究発表

| | |
|---|---|
| 9：00 ～ | 受付開始（全学教育棟正面入り口） |
| 9：30 ～ 12：00 | 研究発表（全学教育棟） |
| （昼休み） | |
| 13：00 ～ 16：30 | 研究発表（全学教育棟） |

・会場の概要については熊本大学ウェブサイトをご参照ください。[1]
・開始・終了時刻はいずれも現時点での予定です。発表プログラムは 9 月中旬に参加等申込者に送付する予定の第3回サーキュラーでお知らせいたします。
・各教室につき午前5件、午後6件程度の研究報告を配置する予定です。

10 月 3 日（月）現地見学会（阿蘇）

時程　9:30 肥後大津駅集合　もしくは　10:00 阿蘇駅集合
・いずれかの場所にて貸し切りバスにピックアップします。ピックアップ地点までは各自で移動してください。
17:00 阿蘇熊本空港解散　もしくは　17:30 肥後大津駅解散
・いずれかの場所にてバスより下車いただきます。以降の移動につきましては各自でご手配ください。
見学地　阿蘇（草千里、中岳、高森田楽村、上色見熊野座神社、白川水源）

・参加は事前に申し込みいただいた方に限ります。
・詳細は本サーキュラー「6．現地見学会（エクスカーション）」の項を参照してください。

## 4．参加費の納入方法

### （1）納入方法と期限

本サーキュラーに同封の「払込取扱票」に、納入金額の内訳、合計金額等必要事項をご記入のうえ、下記の「ゆうちょ銀行」振替口座にお振り込みください。払込手数料につきましては、恐れ入りますがご負担願います。

【口座番号】00210-5-109542
【加入者名】日本民俗学会年会実行委員会

・同封の「払込取扱票」を紛失された場合は、郵便局の払込用紙（青色）の通信欄に、納入金額の内訳（年会参加費・懇親会参加費・2 日（日）弁当代等の別・現地見学会参加費）を明記のうえ、払い込んでください。
・年会参加費等の納入期限は 8 月 31 日（水）です。期日にて振込み口座を閉鎖いたしますので、余裕をもって手配をお願いいたします。
・研究報告を行うには「期日までの年会参加費の納入」ならびに「日本民俗学会の年会費が完納されていること」が条件となっております。いずれかを満たさない場合、発表辞退として取り扱う定めとなりますため、十分にご注意ください。
・口座閉鎖後の入金は当日窓口で、当日料金にて申し受けします。またその場合には、名札の事前用意や発表要

1　https://www.kumamoto-u.ac.jp/campusjouhou/kurokamikitaku

旨集・弁当の取り置き等はいたしません。

・新型コロナウィルスの感染拡大によるロックダウンや、台風等の自然災害によって大会が中止となった場合にも参加費の全額返金は致しかねます。必要経費等を差し引いた上で、後日の返金措置となりますため、何卒ご理解ください。

・第2回目以降のサーキュラーは、今回参加申し込みをされた方のみにお送りいたしております。なお電子版のサーキュラーは年会ウェブサイトにも掲載します。

（2）参加費

年会参加費は第1サーキュラーでの告知の通り、以下のように定めます。懇親会費、弁当代、現地見学会参加費は、それぞれ該当する方のみ払い込んでください。払い込み期限は 8 月 31 日です。これ以降は会場にて当日料金をお支払いください。

| **年会参加費** | 前払い | 当日 |
|---|---|---|
| 会員（一般） | 4,000 円 | 5,000 円 |
| 会員（学生） | 2,000 円 | 3,000 円 |
| 非会員（一般） | — | 5,000 円（当日受付のみ） |
| 非会員（学生） | — | 3,000 円（当日受付のみ） |
| | | |
| 懇親会参加費 | | |
| 会員（一般） | 5,000 円 | 6,000 円 |
| 会員（学生） | 3,000 円 | 3,000 円 |
| 非会員（一般） | — | 6,000 円（当日受付のみ） |
| 非会員（学生） | — | 3,000 円（当日受付のみ） |
| | | |
| 2日（日）弁当代 | 700 円 | —（事前受付のみ） |
| 現地見学会参加費 | 4,000 円 | —（事前受付のみ） |

・懇親会は新型コロナウィルスの感染対策のため、参加人数に制限があります。事前申し込みを優先し、当日申し込みは受け入れ可能な範囲でのみ申し受けますため、希望者数によってはお断りする場合があります。何卒ご了解ください。

・会場最寄り駅周辺には飲食店・コンビニがいくつかありますが、大学内の食堂は土日とも閉店しております。弁当の事前申し込みか持参をおすすめします。

・非会員の方は事前申し込みに関わらず、一般・学生ともに当日受付のみ申し受けいたします。

・前払いの会員「学生」料金は、日本民俗学会の 2022 年度（2021 年 9 月～ 2022 年 8 月）会費を学生料金で納めている会員に適用されます。当日の学生料金は、会員・非会員を問わず、年会当日、学生証を提示した方に適用します。

## 5．発表要旨の提出

一般発表、グループ発表に申し込まれた方は、以下の要領で報告題目を正式登録のうえ、発表要旨の原稿を実行委員会に提出してください。いただいた要旨は当日参加者に配付する要旨集に掲載いたします。

### （1）題目・要旨提出の概要

提出期日　8 月 31 日（水）24 時 必着

発表題目の登録

年会サイトより「発表題目入力フォーム」にアクセスし、表示に従って、①メールアドレス　②氏名　③所属　④発表区分　⑤正題　⑥副題　の順で入力してください。いただいた内容で発表登録をいたします。なお Google アカウントをお持ちの方は、このフォームを経由してそのまま発表要旨原稿を提出することができます。

発表要旨の提出

上記フォーム経由で提出いただいた方は、それで完了となります。フォームを使用しない場合、事務局まで添付ファイルにて提出をお願いします。アドレスは事務局共通（minzokugaku74@gmail.com）となります。

グループ発表要旨の提出

グループ発表の代表者は、個別の「研究発表要旨」とは別に、グループ発表全体についての要旨（グループ発表要旨 ）をご提出ください。この書式、提出方法等は全て個人発表の方法に準じます。

### （2）発表要旨の執筆要項

発表要旨は以下の要領に従ってご用意ください。不明の場合は事務局までお問い合わせください。

① 要旨のファイル形式は MS-Word（.docx）か PDF（.pdf）とします
② ページ設定は A4 縦長 1 頁とし、横書きとします。43 字× 38 行の文字数を標準とし、最大 1600 字程度としてください。分量を超過し1ページにおさまらない原稿につきましては、発表者同士の公平のため、期日内に再提出いただくか、もしくは超過分の打ち切り掲載とします。
③ 要旨は冒頭に表題、副題、氏名及び所属を明記してください。
④ 引用、参照のルールについては特に指定をしません。「段下げ」「一行空け」などの指示については、提出いただいた元原稿に準じてレイアウトいたします。なお註は使用できません。
⑤ 各発表者が要旨を作成する際のフォント等は指定しません。なお要旨集掲載時のレイアウトや形式は実行委員会に一任いただきます。
⑥ 傍点・下線・ルビなどの使用は必要最低限とし、過度の多用は避けてください。
⑦ 異体字や外国語などの正確な表記は、意向に沿いきれない場合があります。予めご容赦ください。
⑧ 写真・図表を使用してもかまいません。ファイル中に貼り付けて提出してください。サイズは要旨集の編さん時に調整しますが、1 枚あたり 400 文字換算を目安とし、本文の文字数を減らしてください。印刷は白黒となり、キャプションはつけられません。基本的にページの最下段に配置します。細かいレイアウト上の指定や、印刷品質上の要望はともに承りかねます。
⑨ 明白な誤字、脱字等は実行委員会において修正いたしますが、校正･校訂の責まで負うものではありません。要旨は完全原稿として作成してください。

（3）発表の準備について

・個人発表は発表 20 分・質疑応答 5 分・移動 5 分を 1 ユニットとします。グループ発表の時間枠は 120 分とし、その配分は代表者にお任せします。発表時間の超過が生じないよう、ご協力をお願いいたします。
・個人発表につきましては、会場教室に座長とタイムキーパー（ベル係）を実行委員会より手配します。グループ発表につきましては、座長、タイムキーパーともに手配しません。
・レジュメを配付する場合、事前に各発表者が印刷したものを持参してください。実行委員会では印刷を承っておりません。またステープラー等の貸出も行っておりません。
・聴講者に配付するレジュメは、各会場入り口付近に長机を用意しますので、事前にそちらに置いておくことができます。発表終了後もそのままにしていただいてかまいませんが、会期終了後は処分いたします。
・発表会場の各教室には、一律に以下の設備を用意いたします。
① HDMI ケーブル ② RGB ケーブル ③会場 PC ④備え付けプロジェクター
・PC を持ち込む方は、お手持ちの機材に①・②の接続端子のいずれかがあることを確認してください。なお接続不調に備え、会場 PC の利用に切り替え可能であるよう、USB メモリー等でデータを別に持参されることをお勧めいたします。
・会場の機材は動画や音声の出力に十分適しておりません。
・会場では eduroam を用いた wifi 接続が使用可能ですが、通信の安定性につきましては実行委員会では保証いたしません。オンライン環境を前提としたプレゼンテーションは各自の責任でお願いいたします。

（4）発表者への注意事項

・発表を予定されている方は、8 月 31 日（水）の期日までに参加費の納入をお願いいたします。なお年会費の未納がある方も、個人発表はお受けできません。年会費の未納については、該当する方に対して日本民俗学会事務局より照会が行われますので、必ずご対応くださいますようお願いいたします。

（5）所属の表記について

第 29 期理事会は、2014 年 7 月 13 日に「日本民俗学会会員の属性、帰属意識の多様性の尊重に関する声明」を公表しております。この声明にもとづき、日本民俗学会年会では、参加登録の際の記名、名札、発表要旨集、会場配布レジュメ、質疑応答等での所属・肩書き・立場性の表明は、各人の帰属意識に基づいて主体的かつ自由に表明していただく定めとなっております。
これにしたがい、発表要旨集、会場配布レジュメ、質疑応答等での所属・肩書き・立場性の表明は、たとえば、つぎのようにお願いいたします。なお、所属・肩書き・立場性の表明は、原則として一人一つでお願いします。

例：
山田 太郎（〇〇市立博物館）、山田 花子（〇〇大学大学院生）、山田 太郎（〇〇民俗学研究会）、山田 花子（〇〇県）、山田 太郎（NPO 法人〇〇）、山田 花子（自営業）、山田 太郎（株式会社〇〇）、山田 花子（会社員）、山田 太郎（インディペンデント・フォークロリスト）、山田花子（〇〇大学非常勤講師）など

## 6．現地見学会（エクスカーション）

・現地見学会は事前にお申し込みいただいた方のみ参加できます。当日受け付けは承っておりません。
・事前申し込みでは 50 名程度の参加希望をいただいております。参加者多数につき、日程中に会計を行うことは困難であることから、現地見学会参加費用につきましては学会参加費とともに事前振り込みをお願いいたします。
・一部で密になる状況がありますため、参加に際しましては事前の体調管理の徹底を宜しくお願い申し上げます。
・集合の後、貸し切りバスでの移動となります。ルートの最後に熊本空港および肥後大津駅（豊肥本線）を順次通りますので、ご希望の地点で下車ください。

### （1）現地見学会概要

日程　　10 月 3 日（月）9:00 ～ 17:30
参加費　4,000 円（貸し切りバス代、昼食費を含む）

### （2）行程

#### （ｉ）集合場所

・次のいずれかの駅前に所定の時間にご参集ください。
　9:30　肥後大津駅（豊肥本線）
　10:00　阿蘇駅（豊肥本線）
・貸し切りバスで各地点を順次回ってゆき、ピックアップいたします。希望のいずれかの地点でバスに乗車ください。
・豊肥本線を阿蘇駅まで乗車されますと、道中でスイッチバックを体験することができます。

#### （ii）立ち寄り地

10:30　草千里浜
　　中岳火口（噴火中につき車窓からの見学になります）
11:40　昼食　高森田楽村（13:00 発）
13:20　上色見熊野座神社（14:50 発）
　　白川水源　もしくは　道の駅久木野（進行次第では省略の場合があります）
17:00　阿蘇熊本空港
17:30　肥後大津駅（豊肥本線）
・バスは阿蘇熊本空港→肥後大津駅を順次回っていきますため、ご都合のよい地点で下車してください。

#### （iii）注意事項

・阿蘇駅でのピックアップに間に合うためには、9: 42阿蘇駅着の電車までにご乗車いただく必要があります。時間に余裕をもった行動をお願いいたします。なお熊本市内からの豊肥本線への乗車には新水前寺駅の利用が便利です。新水前寺駅までは市電（路面電車）を健軍方面にご乗車ください。
・昼食につきましては事前にメニューをご指定いただきます。費用は参加費に含まれますため、清算は事務局で一括して行います。なお昼食の際にアルコール等を別途希望される方は、個別に注文いただいた上、その分の清算はご自身でお願いいたします。なお昼食の時間は限りがありますため、スムーズな清算にご協力ください。
・行程に含まれている上色見熊野座神社では、長い石段を登ることになります。歩きやすい靴、服装にてご参加ください。また荒天時は一部行程を変更する場合があります。予めご了解ください。

## 7. 書籍販売の申し込み

会場内に書籍販売コーナーを設けます。販売を希望される会員、研究会、出版社、団体は下記の要領でお申し込みください。なお委託販売はお受けできません。また、会場の都合で十分なスペースを確保できない場合もありますため、予めご了承ください。販売は年会の日程のうち、10 月 1日および 2日に限ります。

### （1）申し込み方法

年会ウェブサイト上に設置した「書籍販売登録フォーム」より、９月7日（水）までにお申込みください。

### （2）出展条件・費用

出展販売に関しては特に申し込み条件を定めません。また会場使用の費用につきましては、申し込み者に関わらず無料とします。出展は最大 10 ブース程度のスペースを見込んでおりますが、多くの申し込みがあった場合、三密を避ける必要から調整の上、会員ならびに会員の所属する研究会・出版社・団体等の出展を優先することがあります。

非会員の出展者で、懇親会への参加を希望される場合は、上記フォームで合わせて事前申し込みいただいた上で、1 人につき非会員（一般）参加費 6,000 円を、当日お支払いいただくことで参加できます。

本年会の参加者数は事前登録で 230 名程度で、そのほかに当日参加も受け付けております。

### （3）搬入・搬出など

書籍の搬入・搬出方法など、詳細は申し込み後に実行委員会事務局からお送りする「書籍販売の手引き」でご説明いたしますので、それに従ってください。お申し込みにあたって不明点がありましたら、予め事務局までお問い合わせください。

## 8. 広告の募集

本年会では発表要旨集を作成し、参加者に配付いたします。こちらへの広告の掲載を希望される出版社、団体等におきましては、広告掲載要領を同封していますので、そちらを確認の上、９月７日（水）17 時までにメールでお申し込みください。

## 9．公開シンポジウムのご案内

本年会では下記の要領で公開シンポジウムを実施いたします。シンポジウムの中身の詳細につきましては、次ページ以降をご参照ください。

### （1）開催概要

日時　10 月 1 日（土）13:00 ～ 16:50（12: 00 受付開始）
場所　熊本大学黒髪北キャンパス　文法棟 A 1教室

プログラム

| | | |
|---|---|---|
| 13：00～13：15 | 趣旨説明 | 山下裕作 |
| 13：15～13：55 | 第1報告 | 池田朋生 |
| 14：00～14：40 | 第2報告 | 川村清志 |
| 14：45～15：25 | 第3報告 | 福与徳文 |

《休憩15分　コメントシート回収》

| | | |
|---|---|---|
| 15：40～15：55 | コメント1 | 俵木悟 |
| 15：55 ～16：10 | コメント2 | 八木洋憲 |
| 16：10 ～16：50 | 総合討論 | |

### （2）諸注意事項

・本シンポジウムは一般公開形式で計画しておりますが、今後の新型コロナウィルス感染拡大によっては事前登録制などに切り替える場合があります。その場合は第 3 サーキュラーにて告知いたします。
・本シンポジウムは遠方の会員の便宜のため、現在 YouTube を用いた同時配信を企画しております。この実施の詳細は第 3 サーキュラーにて告知いたします。
・シンポジウム終了後、会場でそのまま奨励賞の授賞式を実施いたします。

# 文化財と地域資源
## ―活用をめぐる農政学との対話―

### 主旨

2019 年から 21 年に至るまでの文化財保護法の改正は、文化財の保護に加えて「活用」を強く求める内容となっている。改正前においても「文化財」は、主として学校教育や生涯学習等での活用を求められてきたが、今次の改正における「活用」とは、その発議時に「インバウンド」の資源としての活用が念頭に置かれ、まちおこし等での直接的な経済効果を生み出す「活用」が求められているようにみえる。また、一方で未指定の文化資源の登録による文化財化、その登録における地方自治体の権限の強化などが図られ、文化財のすそ野を広げようとする改正もなされている。そして、現在は各都道府県による「文化財保存活用大綱」（マスタープランに相当？）が作成され、その後市町村による「文化財保存活用計画」（アクションプランに相当か？）が作られることになっている。

こうした現状にあって、学問として積極的に文化財行政の現場に参与しつつあるのが、都市計画学と建築学等の工学分野である。重要文化的景観選定においてその傾向は顕著である。そうした領域において、歴史的な建造物や文化的な景観は、何よりも高い価値を持つ文化財と位置づけられる。なによりだが、現代の生活変化の中における文化財の位置づけ、担い手となる現代の住民にとっての文化財の価値という、従前から文化財行政を担ってきた学問領域が持つ懊悩に関しては、無頓着なようにも見える。

こうした比較的新しい文化財の範疇や、また日本遺産等の導入により、文化財行政における民俗学の立ち位置は徐々に小さなものになりつつあるのではないか。そして現場の学芸員等の担当者は、少ない予算と、減少しつつある担い手という現実の中で、保存という命題に悩み、活用という課題に戸惑っている。なんとか真摯な文化財行政としての突破口を、学会として見出さなければならないのではなかろうか。

そうしたなかでも、一部ユニークな「活用」への取り組みも散見される。文化財レスキューを通じたコミュニティーの再生や、復興意欲の醸成。現代日本における最新・最大級の文化的事業である地域芸術活動への参与などである。どれも希望がもてる有意義な取り組みであるが、未だまとまった議論や評価の俎上には乗せられてはいない。

また、文化を資源として評価し、以前から「活用」し続けている領域は他にもある。農業経済学や農村計画学（かつての農政学）がそれである。昨年度の優秀農林水産業者の「むらづくり部門」における天皇杯（大賞）の受賞地区は熊本県上益城郡山都町白糸第一振興会であった。国の重要有形文化財「通潤橋」を擁する地区である。具体的には 2008 年の重要文化的景観選定を期とした様々な農業・農村振興活動が高く評価されたのであるが、その選定そのものが 1999 年に始まる熊本県による地域用水整備事業（歴史環境保全型）という基盤整備事業によって実現したものと言ってよい。農業土木技術者たちの学問と技術によるところが大きいのである。また、その地区の農業者にとって、最も有効な施策だったのは「中山間地域等直接支払制度」であるという。「多面的機能直接支払制度」ともあわせ、これら日本型直払い制度という施策は、農業経済学や農村計画学が GATT ウルグアイラウンドより、農林水産行政の場で議論し続け、とりまとめ、国民の理解を得るために努力を重ねた「農業・農村の多面的機能」や「地域資源」の概念があったからこそ実現したものである。

現在、「むらづくり」等の農業農村施策において、「田の神」信仰や、「講」や「組」といった、民俗学が発見し対象としてきた事々が、高く評価され、機能や活用の文脈に乗せられている。伝承という継続の効果に期待が寄せられている。農政学も柳田国男の時代から大きく変化しているのである。これら民間伝承を学知の俎上にあげたのは、あくまで民俗学である。その業績は他に代えがたい。ただ、それらの機能を見つめ、現代社会に応用し、

実際に「活用」の俎上にあげているのは、この新しい農政学なのである。

本シンポジウムは、上記に関わる三者をパネラーとしてお招きする。

一人は、世界文化遺産の推進と重要文化的景観、それらによる地域社会の振興という課題を与えられ、真摯に努力し、成果を上げている現場の学芸員。いま一人は、大規模な地域芸術祭において、民俗学の知見を活かし、地域住民やボランティアの都市住民たちとともに、協業しながら、民具を用いた大きなアート作品の創作現場に関与した民俗学徒。そして、「多面的機能」や「地域資源」議論の担い手であり、農村現場でも住民たちとともに地域のより良い振興のために汗を流す、新しい農政学徒である。

これら三者の研究者たちと、シンポジウム会場にお集まりの皆さんで、穏やかな、お互いへの敬意に満ちた議論を進めたい。コメンテーターにも優秀な研究者をお招きした。今回のシンポジウムは、文化財の活用について、そして民俗学と行政の関係の見通しについて、先々のためになる大らかな議論の出発点になればと思う。

コーディネーター：　山下裕作（熊本大学文学部　会員）

パネラー1：　池田朋生[1]（熊本県文化企画・世界遺産推進課　阿蘇分室　会員）
報告タイトル：　阿蘇の文化的景観―文化的景観の保存調査の成果から―
キーワード　：　世界文化遺産　・重要文化的景観　・文化財の活用　の現場での実態

パネラー2：　川村清志（国立歴史民俗博物館　会員）
報告タイトル：　民俗文化からアートへ―現代における保存と活用のアルケミー
キーワード　：　民俗の終焉、文化財の利活用、文化の共創、アート、インスタレーション、芸術祭

パネラー3：　福与徳文[2]（茨城大学農学部　非会員）
報告タイトル：　地域づくりと農政－日本型直接支払による地域資源の保全・活用－
キーワード　：　農業・農村の多面的機能、日本型直接支払、地域資源、地域づくり

コメンテーター1：　俵木悟（成城大学文芸学部　会員）

コメンテーター2：　八木洋憲[3]（東京大学大学院農学生命科学研究科　非会員）

---

1　専門は考古学・博物館学。著書に『人文系博物館教育論』（分担執筆　雄山閣）他、『苓州』（天草の自然と歴史を考える会）幹事

2　専門は地域計画学、著書『地域社会の機能と再生－農村社会計画論－』、『災害に強い地域づくり－地域社会の内発性と計画－』（共に日本経済評論社）他

3　専門は農業経営学・農業経済学、著書『土地利用計画論－農業経営学からのアプローチ－』（養賢堂）、『イギリスの地域農業マネジメント』、『都市農業経営論』（日本経済評論社）他

## 10. 今後のスケジュール

| | |
|---|---|
| 8 月 31 日（水） | 参加費納入期限 |
| 〃 | 発表題目・要旨提出期限 |
| 9 月 7 日（水） | 会場書籍販売 申し込み期限 |
| 〃 | 要旨集広告掲載 申し込み期限 |
| 9 月中旬 予定 | 第 3 サーキュラー発送 |
| 10 月 1 日（土） | 公開シンポジウム、奨励賞授賞式 |
| 10 月 2 日（日） | 研究発表（個人、グループ） |
| 10 月 3 日（月） | 現地見学会 |

［実行委員会事務局］
〒 860-8555 熊本県熊本市中央区黒髪 2 － 40 － 1
熊本大学文学部 山下裕作研究室気付 日本民俗学会第 74 回年会実行委員会事務局
電話 ：096-342-2462（山下裕作研究室直通）
E-mail：minzokugaku74@gmail.com
※ 郵送に際しては学内での郵便事故に備え、上記宛名は省略せずにお書きください。
※ お問い合わせは可能な限り、E-mail をご利用ください。